



経済学部 経済学科

伊藤 大一(いとう たいち) 教授

ブラック企業からネットカフェ難民まで、 非正規雇用労働者やフリーター問題を研究

■ ゼミでは労働と社会保障をテーマに「ブラック企業」「ネットカフェ難民」などの実態調査。

伊藤ゼミでは、労働と社会保障をテーマに、2・3回生では文献を研究、4回生では、個々の学生が興味を持った問題を取り上げて、実地調査を行いながら研究を進めています。これまで学生が取り組んできたテーマでは、「女性の労働実態」、「ブラック企業調査」、実際に1週間ネットカフェに寝泊まりしながらインタビュー調査を続けた「ネットカフェ難民」などユニークな研究発表を行ってきた実績があります。学生が自主的に「まだ答えのない問題」に取り組み、知的発見の楽しさを体感できるゼミです。

■ 日英の若年失業、フリーターや非正規雇用労働者の労働運動からワーキング・プア問題を研究。

「社会政策」の授業を担当する伊藤教授の研究テーマは、「非正規雇用労働者の労働運動」です。若年失業の問題は、日本だけでなくヨーロッパでも同様に発生しており、特に日本とイギリスの若年失業や若年雇用政策を長年に渡り研究し続けてきました。イギリスでは1980年代のサッチャー改革の負の遺産として、小泉改革後の日本と同様にワーキング・プアが社会問題化。その後のブレア政権下では福祉国家改革を打ち出しましたが特効薬には成り得ませんでした。一方で“全員がパートタイマー”というワークシェアリングを取り入れたオランダや、国が技能訓練を充実させたデンマークなどは成功例と言えます。

2000年頃の日本では、「フリーター」は無責任でダメな若者の代名詞でした。しかし今やワーキング・プアや格差問題が叫ばれ、大きな社会問題となっています。伊藤教授は、この問題を幅広い視点から多角的に研究すると同時に、学生に“働くとは何か”という問いを投げ掛けています。

■ 8年に及ぶフィールドワークで、徳島のフリーターたちが組合を作って正社員になった事例を研究。

2004年からスタートし、2008年に大阪経済大学に着任後も最も力を入れてきたのが、非正規雇用の若者たちに焦点をあてたフィールドワークです。特に自動車部品を作る徳島の工場で働く若者たちを、約8年にわたって調査し続けています。この工場で働く派遣労働者の若者たちは、ゼロから法律を勉強し、労働組合を作ってストライキなどの労働運動を行い、最終的には正社員の地位を勝ち取った全国でも稀有な事例です。この事例の周辺にある地域労働市場の影響や労働者の主体などを研究し、著書「非正規雇用と労働運動－若年労働者の主体と抵抗」(法律文化社)にまとめています。企業共同体の崩壊により、リスクを個人で引き受けることが困難になった今の時代だからこそ、家族や労働組合などの共同体が必要だと考えています。

伊藤大一教授 プロフィール

詳細はこちら⇒<https://web.j8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?resId=S000104>

1975年生まれ、山梨県出身

経歴：立命館大学大学院後期博士課程修了

論文：「偽装請負のもとで働く若年労働者の労働過程」『大原社会問題研究所雑誌』No. 586－587合併

主な著書：「非正規雇用と労働運動－若年労働者の主体と抵抗」(2013年3月、法律文化社)

所属学会：社会政策学会、労務理論学会、労働社会学学会

受賞歴：労働運動総合研究所 奨励賞受賞(2010年7月)

< 本件に関するお問い合わせ先 >

大阪経済大学 企画部広報課 高濱、東 Tel: 06-6328-2431 Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp

大阪経済大学 広報デスク(プランニング・ポート内) 福嶋、井上 Tel: 06-4391-7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>